

人生ハンド仏句

第21号

H. 15. 12. 1

(毎月1日発行)

編集・発行
玉蓮山 寺部
真成 部
編集

体信の功德

信なくして此

経を行ぜんは

手なくして

宝山に入り

足なくして

千里の道を

くわだつるが

ごとし

(法蓮鈔)

宗祖、御年五十四「作

ついでこの間、新しい年を迎えたはずが、もう年の「の準備に追われる「師走」である。

そう言えば今年の始めに立てた「一年の計」は、その後如何あいになりましたか？

人の心は、余りにもろく、そして「れやすいもの。それ故に、たった「一年の計」でさえ、やり「す事、あきらめる事、忘れる事を繰り返す。早く我が道を見定めなければ、一年は本「に、「あっ」と言う間の時の流れ、その一年を積み重ねてゆく私達の一生も、決して長くはないものです。どうすれば、生涯懸けて悔いのない道を見定める事が出来るのか？

どうすれば、我が身に誓った志を成し遂げる事が出来るのか？

どうすれば、「足のいく本の「の信仰に目「める事が出来るのか？

頑(がん)として開かぬ人生の扉、「として進まぬ「みの鈍(のろ)さに、人はいつも右往左往する。

けれどもそれは、求める目標が大き過ぎたからではなく、心が空回りしているだけなのである。きっと誰もが自分の未「を信じたいのに、どうしてか自分で自分の限界を決めつけてしまうのは、頭でっかちな知識を越えて存在する、本「の「信」すなわち体信(たいしん)を知らないか

らではないだろうか。

日蓮大聖人が私達にお示し下された、この「(法華)」の修行とは、現「の生涯の上「す「の修行「南無妙法蓮華」であります。

心に描いた「の願いを、現「の世界に引き移す「情なまでの信仰がなくて、どうしてこの手に「珠を握り、千里の道を「むことが出来るか。

お「迦」の多くのお弟子の中で「智慧第一」と言われた「利佛尊者でさえも「信」の一字によらなければ成「する事が出「ない。勿論「法華」であるが「に成「が可能に成るわけであります。

今年一年の反省を「め、しっかりと「南無妙法蓮華」を持(たも)ち明年への道しるべにしたいものであります。

住職 谷川寛俊

与えても
減らぬ親切
残る徳